

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 4 年 10 月 15 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3471100986		
法人名	(株) アーバン・ケア		
事業所名	グループホームすずらん		
所在地	広島県尾道市高須町東新涯4丁目4834-6 (電話) 0848 (55) 1355		
自己評価作成日	令和4年9月13日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3471100986-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	令和4年 10月 7日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

<p>東尾道公園に面し、いつも子供の明るい声が聞こえる環境で、気候の良い時期は、公園に散歩に出かけ、地域の人と触れ合いを持つことができる。又、ホームの五分圏内に、色々なお店が立ち並び買い物しやすい環境でもある。コロナ渦の為ボランティアや面会を制限しているが毎月行事を行い季節感と刺激のある生活を維持し利用者の皆様にコロナ渦の影響が出ないように心掛けている。8月25日に3名のコロナウイルスの感染があったが、感染対策した後は感染者を出すことなく今に至っている。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>法人の方針でもある迅速な対応は、「食べたい時に食べたい食事を」「外に出たいと思った時に外出を」「常に業務改善を繰り返す」など多岐にわたっている。買い物や散歩、地域の行事等への参加を通じて、利用者がふれあいと語らいに満ちた幸福な時を過ごせるための努力を続けている。地域の医療機関との繋がりを大切に、特段の申し入れがない限りは主治医の変更は行っていない。現在も、概ね半数の利用者が以前と同じ主治医を選択しており、地域の医療機関とも良好な関係を構築している。職員も利用者と一緒に幸福な時間を過ごせるように、職員を大切に働きやすく離職率の低い職場を目指して法人全体で努力している。</p>

自己評価	外部評価	項目(ところ)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	理念に基づき、管理者・スタッフとも、思いを共有しつつ、日々の介護にあたっている。毎月の職員会議での話し合いで目標や課題を共有している。	新人研修や個別指導等を活用し、理念の共有と職員の教育に注力している。家庭的な環境の中で、生き甲斐をもって生活して頂くために、事業所の目標と個人目標を定め、理念の共有と実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	コロナ禍の為公園の利用者の皆様とお話をする機会はなくなっているが、隣の公園への散歩を積極的に行っている。	自治会に加入しており、清掃活動への参加や公園等での日常的な交流を通して、地域とのつながりを大切に育んでいる。こども110番の家として、近隣の公園で遊ぶ子供たちの見守りに協力しており、事業所自体が地域の一員として、日常的な交流を続けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	家族会等で自治会の方に発信しているが、コロナ禍の為自粛している。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議ではサービスの向上について話し合いをしているが、コロナ禍の為家族の参加は中止している。	新型コロナウイルスの影響で、書面による伝達となっているが、開催前に地域包括支援センターや介護保険課や家族等に、書面や電話で意見を求めている。参加人数は少ないが、利用者も参加して意見を聞く時間をしっかり確保し、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	高齢者福祉課には、頻りに電話や直接出向くなどして、色々と相談し指導いただいている。	介護保険課の担当者や、地域包括支援センターと日頃から連絡を密にとり、円滑な連携が図れるように取り組んでいる。市主催のイベントや研修に、積極的に参加している。講師の派遣依頼があれば常に協力し、良好な関係が維持できるよう取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目(ところ)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	職員は身体拘束の禁止、又その対象となる具体的な行為は施設内研修や職員会議などで周知徹底している。	法人や身体拘束委員会を中心に、研修や勉強会を実施し、身体拘束をしないケアの実践について学ぶ機会を確保している。行動を制限するのではなく思いを汲み取るという考え方で、地域の住民にも見守り協力を得ながら、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	高齢者虐待防止法について職員会議での話し合いを行い徹底している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	権利擁護については、毎月の職員会議で話し合っている。成年後見制度については、利用されている方がおられ、現場を通じて理解する機会があるが、特別に講師を招き勉強会は出来ていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時に契約書に添って説明し、その場で理解納得していただくようになっている。十分説明を行った上で、納得の上承諾書も頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	御意見箱を設け御家族の御家族が言いにくい御意見が聞けるようにしている。又面会時にも御家族の思いを聞けるよう努力している。	食事や入浴等の日常生活を通じて、利用者の意見や意向の把握に努めている。手紙や電話等を活用し、1カ月に1回の頻度で、家族の要望等の聞き取りを実施している。職員に対して言い難い場合は、家族会の代表を通じて意見を伝える等、可能な限り運営に反映させている。	

自己評価	外部評価	項目(ところ)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	管理者は積極的に職員との話し合いをし提案を反映している。言いにくい事は投函箱を作り、匿名で投函し、職員会議で話し合っている。	全体のミーティング及び日頃からの声掛け等で良好な関係を構築し、職員が意見や提案を言いやすい環境作りに尽力している。相談や提案は異なるユニットのリーダーにも可能で、職員からの提案は早急に検討し、業務内容の見直し等を実施している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員会議や日頃の会話等から、職員の考えや思いを把握し、安心して勤務できるような環境を整えている。シフトも職員の希望を聞きなるべく添うようにしている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	介護技術等、経験のある職員が、経験の少ない職員に対応の仕方を教えている。又外部から理学療法士を招き介護技術とその知識を得る機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	アーバンケア内の施設との交流により職員間の交流や施設内のサービスの向上に努めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	事前に家族や本人との面接の機会を持ち、色々な思いを聞かせていただき、趣味や生活習慣を理解し安心出来る環境になるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目(ところ)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居決定までには来所又は電話により、家族が納得できるまで相談窓口を作り、不安を抱えたまま契約にならぬようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	当ホームを家族が希望しても、面談をしてみて、入所より在宅が適当であると感じた場合、家族の介護負担も軽減する支援方法を提案している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	スタッフが時には子供になり、時には親になり、入居者と喜怒哀楽を共ににし、日々の話の中で人生の先輩より学ぶことが多々あり、それが働いている楽しさでもある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	入居者ご家族とスタッフは家族的雰囲気でも話し合える関係作りが出来る。又必要な方は携帯電話を利用して頂き御家族との連携を保っている。遠方の御家族には月報や電話で状況を密にしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	コロナ渦の為 面会の制限をしているが、すずらん便りや 手紙などで関係を保っている。	利用者及びその家族から、特段の申し入れがなければ主治医を変更せず、馴染みの病院で馴染みの関係が継続できるように、家族と協力し通院を支援している。散歩・ドライブ・買い物・年賀状、手紙を活用しながら、馴染みの人や場所との関係が途切れないように尽力している。	

自己評価	外部評価	項目(ところ)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	一人一人が孤立しないようリビングの席並びなど、何度も検討を重ね、入居者同士のトラブルを避け、楽しく過ごせるような椅子の配置にしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約終了された方の家族よりボランティアの申し出がある等、関わりは継続していたが、コロナ渦の為、関係が薄れている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	希望・意向の把握に努めようと努力しているが、なかなか思いをくみ取ってあげることが出来ない方もおり、検討課題である。	日常の会話を通して、本人の思いや意向を把握し、申し送り等を活用しながらチーム全員で情報を共有し、利用者本位の支援ができるように検討している。利用開始前の情報に関しては、家族・主治医・知人・前任のケアマネジャー等の協力を得て把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	生活環境を極力変えたくない為、馴染みの物を居室に入れたり、生活暦についても聞き、対応に活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	個々の心身状態に合わせ入居者のペースに合わせた生活を支援しているが、まだまだ有する力を全員が発揮できていない現状だが、残存機能を生かした支援を心掛けている。		

自己評価	外部評価	項目(ところ)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>モニタリングを基本に家族・スタッフで話し合い、ケアプランの作成をしているが、本人の希望を聞き取る事が難しい方もおられ、日々の対応で知り得た情報より、思いを汲んでの介護計画となっている方もおられる。</p>	<p>計画作成者は、利用者毎の担当者に意見を聞き、ミーティングや意見箱等を活用しながら、職員間で課題・意見・情報を反映しやすい仕組みを構築している。職員からの情報をもとに、サービス担当者会議を開催し、本人・家族等と話し合い、現状に即した介護計画を作成している。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>個別記録はきちんと記録している。情報は家族にも公開し、介護計画の見直しに活かされている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>その方の身体状況・精神状態等に応じ、家族や入居者のニーズには出来る限り協力体制を取っている。(庭の草むしり等)</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>コロナ渦以前は囲碁教室に通う等していた。今もお誘いの電話を頂くが自粛している。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>内科・皮膚科・歯科の往診もあり、受診に行くことが難しい方も適切な医療体制で臨んでいる。</p>	<p>利用者及び家族から特段の申し入れがなければ、かかりつけ医を変更せず、家族の協力を得ながら通院を支援している。協力医療機関より、定期的に往診(内科・皮膚科・歯科)を受けている。専門医への受診が必要な場合は、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項目(ところ)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	体調の変化にも状況により訪問相談等、24時間体制で連絡がとれる関係である。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院3ヶ月までは退居の必要はなく安心して過ごして頂ける。それ以上の入院の場合については早期退院に向けての情報交換等、医療機関と話し合いを持っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	家族の希望で看取りまでケアしている。家族と密に連絡を取り、重症化した場合、終末期については主治医と施設・家族で話し合いを持ち三者で連携を保ち、方向性を同じくしている。	契約時に「重度化した場合における対応」を用いて、終末期においての利用者及び家族の希望を確認している。主治医の判断で、訪問看護を利用する場合もある。看取りの研修及び反省会は、毎月のミーティングを活用し、必要になったタイミングで行っており、職員の教育にも尽力している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変や事故に備えて緊急マニュアルをスタッフルームに掲示、それに従い落ち着いて対応するように伝達している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	マニュアルの作成、消防計画による任務等の役割分担を明確にし、年二回の避難訓練を実施しているが、地域を交えての訓練はできていない。	消防署に協力を依頼し、避難訓練を年2回の頻度で実施している。火災の原因になるコンセント周辺の確認や掃除を、週に1回の頻度で実施している。備蓄も法人単位で確保している。今後も、自治会等との協力体制が維持できるように、日頃から尽力している。	

自己評価	外部評価	項目(ところ)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	個人情報には外に漏らさないことを徹底している。入居者に対しては人として尊敬の念を忘れず、言葉かけや対応に配慮しているが、完璧とは言えず、カンファレンス等で、スタッフに向けて、注意している。	利用者の人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応ができるよう、新人研修・個別指導等を活用している。個人ファイルなどの記録に関しても、他者の目に触れない場所に保管している。利用者の誇りや経験等を尊重し、常に配慮を怠らないよう対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	生活における希望等を尋ねたり、自己決定の出来る場を設けるなど考慮しているが、自分の思い・希望を表出することが出来にくい方もおられる。年に一度個別支援の月を儲け御本人の希望に添える特別な日を設けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	起床時間・就寝時間・その他日常の活動についてもまず声かけにより入居者の意思を確認し介助するように心がけているが、時間に限りがあり職員主導になりがちである。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	自分の意思決定ができる方は化粧品等一緒に買い物などしているが、自己決定できない方は利用者の好みなど職員が把握するようにし支援している。又理容について2ヶ月に1度、訪問理容をお願いしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食器拭きなどは手分けして職員と共に行い定着している。又食事中も会話が弾むよう職員が中に入ったり仲の良い利用者同士を同じ席にするようにしている。	季節の食材を取り入れ、3食手作りの食事を提供している。ウッドデッキを利用し、外で食事を楽しんだり、畑で収穫した野菜が食卓に上がることもある。誕生月には、食べたいメニューをリクエストすることができる。夜間に空腹の訴えがあれば、夜食としておやつと飲み物を提供している。	

自己評価	外部評価	項目(ところ)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>栄養状態はDrと相談しながら把握し、一人一人の嗜好などに配慮しながら支援している。又歯の状態、嚥下の難しい人には刻んだり、とろみをつけ食べやすいよう配慮している。水分補給は、食事以外の時にも、度々機会をつくり、水分量の確保に気をつけている。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>起床時、毎食後の口腔ケアの声かけ、誘導をしている。出来る所は自力で、出来ない所を援助している。義歯は就寝前に洗浄液につけ清潔を保っている。又個人個人にあわせ、糸ようじやスポンジ歯ブラシを使用し口腔内の健康に勤めている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>一人一人のパターンを把握し、なるべく失敗を減らし、トイレで排泄できるように声かけ誘導している。一人一人の能力に応じて介助を行っている。</p>	<p>排泄表を活用することで、利用者の排泄パターンを把握し、なるべくオムツを使わない支援を実践している。理学療法士を講師に招き、介護技術を学んでいる。退院時や急に体調が変化した場合も、申し送り等を活用し、早期に利用者の状態に合わせて対応することで、トイレでの排泄や自立に向けた支援を行っている。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>体操・レクリエーション・散歩により身体を動かす事、食事時、食間、入浴後の水分補給を心がける。排便チェック表を作成し、個人の周期を把握した上で、トイレ誘導をしている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>個々の曜日は決めていないが、時間帯はほぼ決まっている。入浴時は職員との会話を楽しんでいる。</p>	<p>利用者の生活のリズムや気持ちの変化を把握し、個々のタイミングと頻度に合わせた入浴の支援を実施している。また、入浴を楽しめるよう、入浴剤を使用している。浴槽の使用が難しい場合は、座ったままの姿勢で、身体を包むようにシャワーが広がる、全身浴シャワーを活用している。</p>	

自己評価	外部評価	項目(ところ)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。</p>	<p>睡眠パターンについては、職員の方でほぼ把握出来ている。昼夜逆転の傾向の傾向の人やその他夜間の様子については申し送り等で職員間で情報を共有、カンファレンスで話し合い、日中のあり方を検討し配慮する。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>処方箋に目を通し、把握しておく。服薬時は日にちと名前を職員2名で確認をし、誤薬の無いように徹底している。又ノートを作成し主治医に体調の変化の報告をしている。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。</p>	<p>レクリエーション、散歩等、声を出したり笑ったり身体を動かしたりという活動を日課の中に取り入れるよう心がけている。又、洗濯物の手伝い、食後の片付け等個々の役割を決めている。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>向かいの公園へ数人に分かれて出かけている。希望者には近くのお店に買い物に行ったりしていたが、コロナ感染の心配があり自制している為、御家族や外部の方の協力をお願いしていない。</p>	<p>新型コロナウイルスの予防対策を徹底し、菜園の草取り・買い物・公園への散歩・車で馴染みの場所にドライブ等、希望にそって外出を支援している。過ごしやすい気候の時や、利用者から要望のある時は散歩に出かけ、近隣の公園等を活用しながら、地域の人々と日常的に交流している。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>	<p>お金の所持に関しては、トラブルの元になるので、入所時からお断りしている。しかし買い物の楽しみを味わっていただく為に施設内でお店を開き、お金を使う事の支援を行っている</p>		

自己評価	外部評価	項目(ところ)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話は自由に使っている。個人的に携帯電話を預かったり、手紙のやり取りのお手伝いもしている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	天候の良いときはなるべく自然の光や風が取り入れられるよう心がけている。リビングはいつも季節感を感じられるよう配慮している。又行事やイベントの写真を貼ったりビデオを見たりして思い出を会話に繋げている。	季節を感じて頂けるように、飾り等を活用している。居心地の良い空間を維持するために、毎日の掃除を徹底し清潔な空間を維持している。室温管理に関しては、温度湿度計を活用している。利用者と職員が協力し、生活感や季節感のある共有空間づくりを目指している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ほとんどの方が日中は、リビングやソファで過ごされているが、お部屋で過ごしたい方は、自由に一人の時間を楽しんでいる。友達関係の出来た方は、隣同士になれるよう、席替えをしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	各居室、同じ造りになっているが使い慣れた物を持ち込まれたり、テレビを置いたり家族の写真を飾ったりしてその人らしい部屋となっている。	エアコン・洋服ダンス・整理ダンス・ベッドは備え付けで、その他の家具や調度品は持ち込み自由である。また、ロボットの犬や猫と一緒に過ごされる方も多く、その存在が穏やかな日常を彩っている。アルバムや家具等、大切にしていたものを活かしながら、利用者にとって居心地の良い居室になるよう努力している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	能力に応じてバーを利用したり、シルバーカーや車椅子で移動されている。歩行立ち上がりの不安定な方は居室にもバーや立ち上がりの為のポールも取り付けている。又お手伝いを積極的にして頂きADLの維持に努めている。日常行う行動については判りやすい掲示、案内などに配慮する。		

V アウトカム項目(ところ) ← 左記()内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

自己評価	外部評価	項目(ゆめ)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	理念に基づき、管理者・スタッフとも、思いを共有しつつ、日々の介護にあたっている。毎月の職員会議での話し合いで目標や仮題を共有している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	コロナ禍の為公園の利用者の皆様とお話をする機会はなくなっているが、隣の公園への散歩を積極的に行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	家族会等で自治会の方に発信しているが、コロナ禍の為自粛している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議ではサービスの向上について話し合いをしているが、コロナ禍の為家族の参加は中止している。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	高齢者福祉課には、頻繁に電話や直接出向くなどして、色々と相談し指導いただいている。		

自己評価	外部評価	項目(ゆめ)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	職員は身体拘束の禁止、又その対象となる具体的な行為は施設内研修や職員会議などで周知徹底している。		
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	高齢者虐待防止法について職員会議での話し合いを行い徹底している。		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	権利擁護については、毎月の職員会議で話し合っている。成年後見制度については、利用されている方がおられ、現場を通じて理解する機会があるが、特別に講師を招き勉強会は出来ていない。		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	契約時に契約書に添って説明し、その場で理解納得していただくようにしている。十分説明を行った上で、納得の上承諾書も頂いている。		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	御意見箱を設け御家族の御家族が言いにくい御意見が聞けるようにしている。又面会時にも御家族の思いを聞けるよう努力している。		

自己評価	外部評価	項目(ゆめ)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>管理者は積極的に職員との話し合いをし提案を反映している。言いにくい事は投函箱を作り、匿名で投函し、職員会議で話し合っている。</p>		
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>職員会議や日頃の会話等から、職員の考えや思いを把握し、安心して勤務できるような環境を整えている。シフトも職員の希望を聞きなるべく添うようにしている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>介護技術等、経験のある職員が、経験の少ない職員に対応の仕方を教えている。又外部から理学療法士を招き介護技術とその知識を得る機会を設けている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。</p>	<p>アーバンケア内の施設との交流により職員間の交流や施設内のサービスの向上に努めている。</p>		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。</p>	<p>事前に家族や本人との面接の機会を持ち、色々な思いを聞かせていただき、趣味や生活習慣を理解し安心出来る環境になるよう努めている。</p>		

自己 評価	外部 評価	項 目(ゆめ)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居決定までには来所又は電話により、家族が納得できるまで相談窓口を作り、不安を抱えたまま契約にならぬようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	当ホームを家族が希望しても、面談をしてみて、入所より在宅が適切であると感じた場合、家族の介護負担も軽減する支援方法を提案している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	スタッフが時には子供になり、時には親になり、入居者と喜怒哀楽を共ににし、日々の話の中で人生の先輩より学ぶことが多々あり、それが働いている楽しさでもある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	入居者ご家族とスタッフは家族的雰囲気でも何でも話し合える関係作りが出来る。又必要な方は携帯電話を利用して頂き御家族との連携を保っている。遠方の御家族には月報や電話で状況を密にしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	コロナ渦の為 面会の制限をしているが、すずらん便りや 手紙などで関係を保っている。		

自己評価	外部評価	項 目(ゆめ)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	一人一人が孤立しないようリビングの席並びなど、何度も検討を重ね、入居者同士のトラブルを避け、楽しく過ごせるような椅子の配置にしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約終了された方の家族よりボランティアの申し出がある等、関わりは継続していたが、コロナ渦の為、関係が薄れている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	希望・意向の把握に努めようと努力しているが、なかなか思いをくみ取ってあげることが出来ない方もおり、検討課題である。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	生活環境を極力変えたくない為、馴染みの物を居室に入れたり、生活暦についても聞き、対応に活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	個々の心身状態に合わせ入居者のペースに合わせた生活を支援しているが、まだまだ有する力を全員が発揮できていない現状だが、残存機能を生かした支援を心掛けている。		

自己評価	外部評価	項目(ゆめ)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>モニタリングを基本に家族・スタッフで話し合い、ケアプランの作成をしているが、本人の希望を聞き取る事が難しい方もおられ、日々の対応で知り得た情報より、思いを酌んでの介護計画となっいる方もおられる。</p>		
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>個別記録はきちんと記録している。情報は家族にも公開し、介護計画の見直しに活かされている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>その方の身体状況・精神状態等に応じ、家族や入居者のニーズには出来る限り協力体制を取っている。(庭の草むしり等)</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>コロナ渦以前は囲碁教室に通う等していた。今もお誘いの電話を頂くが自粛している。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>内科・皮膚科・歯科の往診もあり、受診に行くことが難しい方も適切な医療体制で臨んでいる。</p>		

自己評価	外部評価	項 目(ゆめ)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	体調の変化にも状況により訪問相談等、24時間体制で連絡がとれる関係である。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院3ヶ月までは退居の必要はなく安心して過ごして頂ける。それ以上の入院の場合については早期退院に向けての情報交換等、医療機関と話し合いを持っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	家族の希望で看取りまでケアしている。家族と密に連絡を取り、重度化した場合、終末期については主治医と施設・家族で話し合いを持ち三者で連携を保ち、方向性を同じくしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変や事故に備えて緊急マニュアルをスタッフルームに掲示、それに従い落ち着いて対応するように伝達している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	マニュアルの作成、消防計画による任務等の役割分担を明確にし、年二回の避難訓練を実施しているが、地域を交えての訓練はできていない。		

自己評価	外部評価	項目(ゆめ)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	個人情報には外に漏らさないことを徹底している。入居者に対しては人として尊敬の念を忘れず、言葉かけや対応に配慮しているが、完璧とは言えず、カンファレンス等で、スタッフに向けて、注意している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	生活における希望等を尋ねたり、自己決定の出来る場を設けるなど考慮しているが、自分の思い・希望を表出することが出来にくい方もおられる。年に一度個別支援の月を儲け御本人の希望に添える特別な日を設けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	起床時間・就寝時間・その他日常の活動についてもまず声かけにより入居者の意思を確認し介助するように心がけているが、時間に限りがあり職員主導になりがちである。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	自分の意思決定ができる方は化粧品等一緒に買い物などしているが、自己決定できない方は利用者の好みなど職員が把握するようにし支援している。又理容について2ヶ月に1度、訪問理容をお願いしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食器拭きなどは手分けして職員と共に行い定着している。又食事中も会話が弾むよう職員が中に入ったり仲の良い利用者同士を同じ席にするようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目(ゆめ)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>栄養状態はDrと相談しながら把握し、一人一人の嗜好などに配慮しながら支援している。又歯の状態、嚥下の難しい人には刻んだり、とろみをつけ食べやすいよう配慮している。水分補給は、食事以外の時にも、度々機会をつくり、水分量の確保に気をつけている。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>起床時、毎食後の口腔ケアの声かけ、誘導をしている。出来る所は自力で、出来ない所を援助している。義歯は就寝前に洗浄液につけ清潔を保っている。又個人個人にあわせ、糸ようじやスポンジ歯ブラシを使用し口腔内の健康に勤めている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>一人一人のパターンを把握し、なるべく失敗を減らし、トイレで排泄できるように声かけ誘導している。一人一人の能力に応じて介助を行っている。</p>		
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>体操・レクリエーション・散歩により身体を動かす事、食事時、食間、入浴後の水分補給を心がける。排便チェック表を作成し、個人の周期を把握した上で、トイレ誘導をしている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>個々の曜日は決めていないが、時間帯はほぼ決まっている。入浴時は職員との 会話を楽しんでいる。</p>		

自己評価	外部評価	項 目(ゆめ)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	睡眠パターンについては、職員の方ではほぼ把握出来ている。昼夜逆転の傾向の傾向の人やその他夜間の様子については申し送り等で職員間で情報を共有、カンファレンスで話し合い、日中のあり方を検討し配慮する。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	処方箋に目を通し、把握しておく。服薬時は日にちと名前を職員2名で確認をし、誤薬の無いように徹底している。又ノートを作成し主治医に体調の変化の報告をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	レクリエーション、散歩等、声を出したり笑ったり身体を動かしたりという活動を日課の中に取り入れるよう心がけている。又、洗濯物の手伝い、食後の片付け等個々の役割を決めている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	向かいの公園へ数人に分かれて出かけている。希望者には近くのお店に買い物に行ったりしていたが、コロナ感染の心配があり自制している為、御家族や外部の方の協力をお願いしていない。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お金の所持に関しては、トラブルの元になるので、入所時からお断りしている。しかし買い物の楽しみを味わっていただく為に施設内でお店を開き、お金を使う事の支援を行っている		

自己評価	外部評価	項目(ゆめ)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>電話は自由に使っている。個人的に携帯電話を預かったり、手紙のやり取りのお手伝いもしている。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>天候の良いときはなるべく自然の光や風が取り入れられるよう心がけている。リビングはいつも季節感を感じられるよう配慮している。又行事やイベントの写真を貼ったりビデオを見たりして思い出を会話に繋げている。</p>		
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>ほとんどの方が日中は、リビングやソファで過ごされているが、お部屋で過ごしたい方は、自由に一人の時間を楽しんでいる。友達関係の出来た方は、隣同士になれるよう、席替えをしている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>各居室、同じ造りになっているが使い慣れた物を持ち込まれたり、テレビを置いたり家族の写真を飾ったりしてその人らしい部屋となっている。</p>		
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>能力に応じてバーを利用したり、シルバーカーや車椅子で移動されている。歩行立ち上がりの不安定な方は居室にもバーや立ち上がりの為のポールも取り付けている。又お手伝いを積極的にして頂きADLの維持に努めている。日常行う行動については判りやすい掲示、案内などに配慮する。</p>		

V アウトカム項目(ゆめ) ← 左記()内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームすずらん

作成日 令和4年 11月 2日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	20	コロナ渦の終息が見えず、面会制限を継続しなければならない。今後はリモート面会を開始したい。	リモート面会が出来るよう、御家族に働きかけ、全職員がリモート面会に対応出来るようにする。	職員にリモート面会の手順の勉強会を行う。	6か月
2	35	地震や災害時、職員が機能的に動けるように会社、グループ全体での状況把握をしたい。	本社と連携して災害時職員の状況把握の訓練を行う。	BCPの訓練を行う。	3か月
3	35	避難訓練が現実に活かされる訓練ではない。	想定外の訓練を行い少しでも緊張感のある訓練を行う。	実際に人を担いで階段を降りたり出火元を伝えずに訓練を始めた。	1か月
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。